

## 欧州を中心に再エネの「クラウドファンディング」が拡大<sup>1</sup>

新エネルギー・国際協力支援ユニット  
新エネルギーグループ

11月5日に「再生可能エネルギー・クラウドファンディング会議」<sup>2</sup>の第2回会合がロンドンで開催された。20カ国以上から150人以上のステークホルダーが参加し、再エネ・クラウドファンディングの現状と将来の展望について話し合った。

クラウドファンディング (CrowdFunding) (以下、CFと表記) とは、群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語で、事業者が特定のプロジェクトやベンチャーに対して、インターネットを通じて不特定多数の人々から出資を募る仕組みである。近年は、太陽光や風力などの再生可能エネルギープロジェクトの資金調達手段としても注目を集めている。

出資者は支援したい事業に対して少額から気軽に投資でき、利益が出れば投資額に応じた利子や配当を受け取ることができる。一方、事業者側も、多数の出資者から集めた資金が一定額に達した時点で事業を開始できるので、投資リスクを分散・軽減できるという利点がある。また、CFを通じて地域住民が出資する再エネ事業では、人々の参加意識が高まるので、環境訴訟などが起こりにくいとされる。地域レベルの比較的小規模な再エネ事業を扱う場合が多いが、洋上風力発電などの大規模プロジェクトにおいて必要な投資額の一部をCFでまかなうケースもある。

英国に本拠を置き、2012年に事業を開始したCFプラットフォーム大手のAbundanceを例にとると、18歳以上であれば誰でも事業に出資でき、最低投資額は5ポンド(約1,000円)と低く設定されている。これまでに手がけたプロジェクト数は14、合計調達金額は1,585万ユーロ(約20億円)に上る。Abundanceで資金を調達した再エネ事業の一つに、50kW DistGen Rogershill 風力プロジェクト<sup>3</sup>がある。2012年11月に発電を開始した後、2014年10月にAbundanceを通じてCFを実施し、同年12月に目標調達額の86万ポンド(約1億6,000万円)を達成した。18年間にわたり年8.2~9.4%のリターン(IRR:内部収益率)を見込んでいる。

---

<sup>1</sup> 本稿は平成27年度経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業(海外における再生可能エネルギー政策等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュース等を基にして作成した解説記事です。

<sup>2</sup> <http://www.recrowdfunding.eu/>

<sup>3</sup> <https://www.abundanceinvestment.com/app/projects/distgen-rogershill>

スウェーデンで17年間稼働した風力タービン1基を、開発会社DistGenが買い取って調整し直した後、英国のDevonに設置した。タービンはその後、18年間の稼働を予定している。プロジェクトの主な収入源は、政府の固定価格買取(FIT)である。

今年 9 月のデータによると、全世界で過去に CF を通じて資金調達を行った再エネプロジェクトの数は約 300、累計調達金額は 1 億 8,000 万ユーロ（約 236 億円）に達した。調達金額では、1 位がドイツの Trillion Fund (1 億 430 万ユーロ) で群を抜く<sup>4</sup>。2 位は前述の Abundance、3 位がオランダの Windcentrale (1,500 万ユーロ)、4 位が米国の Village Power (460 万ユーロ)、5 位がデンマークの Econeers (410 万ユーロ) である。これらが手がける事業は概ね年 3~9% のリターンを確保している。上位 5 社による調達額は、昨年の 3,100 万ユーロから今年には 1 億 4,400 万ユーロに急増した。CF プラットフォームの数では欧州が最多で 17、米国が 7 でそれに続く。

今後は、インターネットが普及している日本、中国、インドなどの新興再エネ市場や、途上国の市場においても、再エネ資金調達の新たな手法として CF が広く取り入れられる可能性がある。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

---

<sup>4</sup> Trillion Fund は昨年の 4 位から 1 位に大きく躍進したが、現在、再エネプロジェクトの資金調達を停止している。その理由として、ドイツ政府の再エネ支援策の縮小と将来見通しの不透明性を挙げている。